

特集

消防団員にインタビュー

仕事をもちながら、日夜防災活動に尽力されている消防団員。火事や災害があれば、市民の安全のためいち早く現場に駆け付け、消火・救援活動に奔走されています。

今回は、そんな消防団員の皆さんの思いを聞くため、昨年(2022)の第54回滋賀県消防操法訓練大会小型ポンプ操法の部で優勝された第7方面隊(能登川地区)第22分団の方々に話を伺いました。

お父さんは地域のヒーロー

◎消防団の魅力は？

- 年齢や自治会の枠を超えたつながりができる。
- みんなで助け合ったり、年齢が離れていても気軽に話せてすごく雰囲気がいい。
- ポンプ操など、一つのことに対してかける思いや充実感、達成感を実感できた。

練習を介して団員間の会話が増え、団結力が増した。

正義感が芽生え、いざ火事や台風の際には、「一番に行かない」という気持ちを持つようになった。

選手はやらされ感ではなく、やらねばならないという責任感を持てた。

サポートメンバーも選手のためにどう準備していくかを常に考えるようになった。

この歳で怒られるとは思わなかった(大笑)。

◎消防操法訓練を通じて得られたことは？

■ やり遂げようと思う気持ちが自分に生まれた。

◎職場や家族の理解は？

- 職場の上司が消防団経験者なので理解はある。練習も「頑張れ」と送り出してくれる。
- 職場の上司の理解があまりなく、仕事に出動がかかると職場に迷惑をかけていると感じる。



- 台風がくれば出動するものだと家族は思っている。
- 出動中に家族から連絡があったときは、家族も不安な思いをしているのかと思った。
- 消防服を着て出動するので、子どもからは消防が本職だと思われていた。
- 優勝したときに、子どもから「4か月間よく頑張ったね」と言ってもらえた。

◎最後に

- 「消防団は酒を飲んでいられるだけ」「年中訓練している」というイメージが強いが、実際はそんなことはなく、メリハリをつけてしっかり活動している。
- 実際に経験すれば得られるものがたくさんあるので、まずは体験してほしい。
- 団員確保は大変だが、自治会にも理解していただいているのはありがたい。

インタビューに参加いただいた皆さん

- 分団長 仙波直一
- 副分団長 中澤宏昭
- 部長 北上純之
- 副部長 北浦博司
- 班長 松田明
- 団員 大友樹彦
- 団員 中尾大樹
- 団員 澤田大樹

